

30代教師の転

起

きる！

失敗やつまずきを転機に、授業力を高める！



進路を実現させられなかった悔しさから「授業で勝負」に挑み続ける

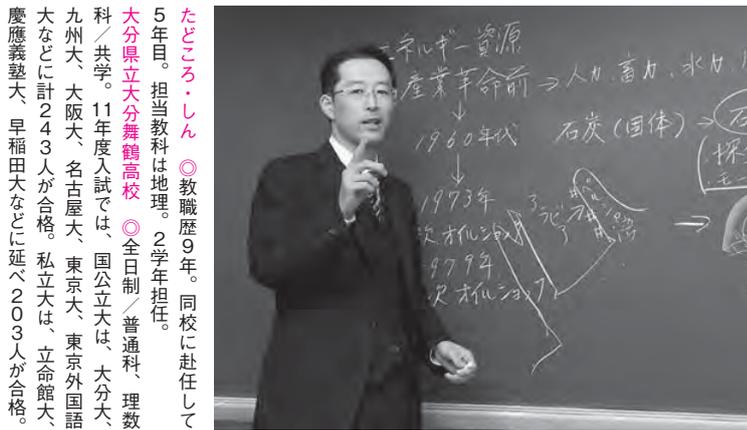
大分県立大分舞鶴高校

田所伸先生

37歳

私が乗り越えてきたもの

教科バランスを考えられない指導



たどころ・しん ◎教職歴9年。同校に赴任して5年目。担当教科は地理。2学年担任。

大分県立大分舞鶴高校 ◎全日制/普通科、理数科/共学。11年度入試では、国公立大は、大分大、九州大、大阪大、名古屋大、東京大、東京外国語大などに計243人が合格。私立大は、立命館大、慶應義塾大、早稲田大などに延べ203人が合格。

教室にいながらにして世界の気候や地形などを把握できる地理の面白さを、一人でも多くの生徒に伝えたい。そんな思いから教師になりました。初任校では写真を多用し、生徒がその地域の様子をイメージできるような授業を心掛けました。そして狙い通り、多くの生徒が地理に興味を持ち、私は「もっと力を付けてほしい」と、演習課題の量を増やしていったのです。

結果として地理の学力は上がりましたが、彼らの大半は、希望進路を実現できませんでした。原因は、学習の教科バランスの悪さ。地理の成績を上げる

教壇と生徒との間に溝を感じる

2校目の赴任校は県内屈指の進学校、大分舞鶴高校。私は前任校での失敗を踏まえ、「課題や補習に頼らず、授業だけで志望大に合格できる学力を身に付けさせよう」と意気込みました。とはいえ、授業時間は50分しかありません。「時間内に少しでも多くの知

授業への自信を失い、生徒の顔を見られなかった

識を伝えたい」という気持ちばかりが空回りし、徐々に、じっくり時間を掛けて解説する余裕をなくしていききました。論理の飛躍があったり、自分が十分に理解していない内容を話してしまったりと、説得力のない授業になっていったのです。そのため、生徒たちは私の授業を静かに聞いてくれてはいたものの、発言や質問など授業へ参加する姿勢はほとんど見せませんでした。

私の立っている教壇と生徒たちとの間に、深い溝があるように感じる毎日でした。そしていつの間にか、黒板に向かって話をするような授業になっていったのです。生徒と視線を合わせるのを恐れている自分に気付き、情けなくなりました。

そして、これからも挑み続ける目標

生徒を引き付ける授業を模索

「進学校の生徒を引き付ける授業がしたい」。その一心で、私は自分の指導を根底から見直しました。一回の授業で生徒の関心を高められる、精選された論理的な解説を旨指したのです。授業内容を精査する視点を得るため、センター試験や難関大の過去問題を分析。20年分以上の問題を解いたのは、教師になって初めてのことでした。徹夜になる日もありましたが、疲れを感じたことはありません。「徹底的に準備して授業に臨まなければ、自信を持って授業が出来ない」と必死でした。やがて、「知識は教え込むものでは

なく、生徒に考えさせてこそ身に付くものだ」と実感した私は、一方的な解説を減らし、生徒と対話する時間を多く設けるようになりました。進学校の生徒は授業中の失敗を恐れています。それならば逆に失敗を喚起しようと考え、彼らに「思い切った失敗しなさい」と伝えたのです。そして、誤答を恐れない雰囲気づくりの過程で、「まずは私が間違いを演じよう」と考えました。正直に言ってみて、「本当に自分が無知だと思われているのかも」と考えたこともありました。ところが、「石油は余っているから、どんどん使おう」と言うのと、生徒が顔を上げて真剣に考えたのです。「綿密な授業準備と生徒の

様子から学ぶ姿勢があれば、授業は改善できる」と、手応えを感じました。

生徒の反応から学ぶ

授業改善の成果は、生徒の表情や様子から少しずつ感じられるようになりました。私の解説に納得してうなずく生徒が増え、授業中の発言も盛んになったのです。初めは私の質問に対する答えだけを言う生徒が目立ちましたが、今では多くの生徒が答えを導いた理由を言い添えるようになりました。

私は毎年3年生の最後の授業で、1年間の授業の感想を生徒に書いてもらっているのですが、赴任4年目の2010年度は、「先生の熱意が伝わってくる授業だった」「毎回、緊張感を持

地理の魅力と受験指導をもっと融合させたい

って出席できた」といった声をたくさんもらいました。学力の向上も見られ、最近ようやく、「課題や補習に頼らなくても生徒を伸ばすことが出来る」と思えるようになりました。しかし、現状に満足しては教師として成長できません。生徒のために何が出来るかを考えようと、若手教師中心の勉強会「MES（*）」を作り、授業スキルなどの課題について話し合っています。

地理は、選択して受講してもらう科目です。地理を選んでくれた生徒たちにもっと伝えたい。受験に対応できる学力を確実に身に付けさせながら、地理を得意とする生徒の知的好奇心にも応えられる授業を目指していきます。

*「Maizuru Education Seminar」の略称

田所先生 の 授業実践



Q&A

Q 地理では、データを読み取って論理的に結論を導く力も求められます。生徒の論理的思考力を育むために、授業でどのような工夫をしていますか？

A 定期考査や実力考査では、必ず論述問題を出しています。グラフや表から気候や地形の特徴を読み取る問題や、指定した言葉を使って解答する問題など、字数や傾向を変えて1回の試験に複数出しています。そのうち1題は難関国立大個別学力試験レベルで作問。地理が得意な生徒の意欲を刺激しようという狙いです。

また、アウトプットの練習として、授業で生徒同士の討論の時間を設けることもあります。「なぜモータニアでタコがたくさん取れるのか」など、既習知識を組み合わせることで結論を導けるようなテーマを出し、生徒は5人1組で話し合います。

Q 知識を定着させるために、どのような工夫をしていますか？

A 定期考査や実力考査では、答案返却後1週間以内に、不正解だった問題はもちろん、正解した問題も全て解き直しをさせています。機械的に解答欄を埋めるのではなく、出題者の意図やメッセージも読み取れるようになってほしいからです。

解き直しの際は、正解が導かれる理由を考えてノートにまとめ、提出させます。理由が分からない場合は、どこがどう分からないかを書くよう指導しています。他の生徒の参考になりそうなまとめや疑問点は、授業で紹介しています。

メッセージをお寄せください

◎更なる授業力の向上を目指す田所伸先生へメッセージをお願いします。同じ課題を抱えている同世代の先生の共感の言葉、独自の授業スタイルを確立された先輩からの応援やアドバイスなどを自由にお寄せください。編集部より、田所先生へお届けします。

下記のe-mailアドレスにメッセージを送信ください

view21_since-1975@mail.benesse.co.jp